

平成28年11月19日（土）の「仏教女性の集い」

天気予報では雨降りと言われていましたが、予報が覆って開催時間には雨も上がり、多くの参加者の中、「仏教女性の集い」は始まりました。私は半年ぶりの参加となりました。

近藤先生始め、先生方もお元気になさっていて温かくほっこりとしたお心を頂きました。なにより時間の隔たりを感じない集いのアットホームさに感謝ばかりでした。



今月から「さとの知恵を読む」仏教聖典副読本をテキストに近藤先生よりご講話頂きました。今日は、釈尊が最後に説法をされたお話でした。

「弟子たちよ、おまえたちは、おのおの、自らを灯とし、自らをよりどころとせよ、他を頼りとしてはならない。この法を灯火とし、よりどころとせよ、他の教えをよりどころとしてはならない。……」

自分を習う。他にある現象に捕われるのではなく、目を、心を、自分に向けて自己を習う。自らを帰依する。法に帰依する。阿弥陀仏になりきる。気が付く、気が付かないに係わらず光を与えて下さっている。その光に気付きなさい。何時でもあなたの傍にいます。「身 口 意」三つの働きに仏様も一緒になって働いて下さる。私が礼拝をすれば仏様も見ていて下さる。口で南無阿弥陀仏と唱えれば仏様も南無阿弥陀仏と申して下さい。心で仏様を思えば仏様もちゃんと申して下さい。日頃の生活の中で阿弥陀様と自分を対峙した関係で向き合うのではなく、少しずつ染まって行く事で光が届き、南無阿弥陀仏の生活に深まり阿弥陀様との距離が無くなって行きます。

いつも守られていると説いて頂きながらなかなか気付けない毎日、いい加減に目を覚ましなさいと叱咤激励をされた思いでした。私は母が老いを重ねて行くにつれて、昔の面影もすっかり無くなって寂しさばかりを感じる今日この頃です。あれほどにしっかりとした母の姿は見る影もなく、頼りげない母の姿に変わってしまいました。その姿に悲しみ、時として憐れみも思えてきます。母との残された時間も少なくなって来たと思うとつらくなってきます。嘆き悲しみに浸るのではなく、母と共に「南無阿弥陀仏」と申す日々を過ごして行きたいと、思いも新たに致しました。

11月のお菓子として喜ばれる「亥の子餅」



(参加者感想 K.O)

次回の「仏教女性の集い」は平成28年12月17日です。

今年最後の集いです。皆様のご参加をお待ち致しております。

「仏教女性の集い」は毎月第3土曜日、午後1時～4時
参加費 1,000円 宗教・宗派は問いません。

条件は女性であることだけです。

多数のご参加お待ちしております。

市バス[知恩院前]下車、東へ150m

『吉水尼僧庵』(旧尼僧道場)で開催致しております。

問い合わせは 隆彦院 075-561-7581 まで



「仏教女性の集い」の様子は浄土宗吉水会のホームページに掲載しております。